

## 会長挨拶

全日本中学校長会 会長 宮澤一則

皆さん、こんにちは。全日本中学校長会 会長の宮澤でございます。どうぞ、よろしくお願いたします。

まずは、3月16日に発生しました福島県沖地震の影響により、東北新幹線や山形新幹線もようやく通常運転が再開された状況であり、宮城県では施設の復旧に半年以上かかるところもあると聞いております。被害を受けられた皆様にお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、新型コロナウイルスも次々と変異株が現れ、収束のめどが立っておりません。落ち着いたかと思うと、また振り返すという繰り返りで、生徒をはじめ、教職員にも精神的な疲労が蓄積されてきております。生徒たちが伸び伸びと生活し、大きな声を出して、自由に行動できる時代が、早く戻ってくることを願っております。

さて、第73回全日本中学校長会 Web 総会が、オンライン形式ではありますが、開催できることを大変うれしく思います。オンラインでの開催も3回目となりますが、過去の経験を活かしながら、毎回進化していると思います。2年前は、緊急の対応のため、開催するということが大きな目的で、何とか実施できてよかったという印象でした。去年は、事前に書面評決をとるなど、非常事態に備えることや円滑に進めるような工夫・改善を行いました。さらに今年度は、全国の皆様のご意見等を参考に、通信による不具合の影響も少ないと判断し、事前に書面評決をとることをせず、画面上で意思を示していただくことにしました。このようにコロナ禍においても「学びを止めない」という強い意志のもと、経験を活かしながら向上させていくということが重要であり、全日中の活動を前進させていくこととなり、全国の中学校教育を発展させることにつながると信じております。

総会資料の2ページに「令和3年度の活動を振り返って」の記載があり、これまでの取組を紹介させていただきましたが、特に昨年度から新学習指導要領が完全実施となり、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現、さらには「主体的・対話的で深い学び」の展開が求められているところです。また、学校における働き方改革の推進やGIGAスクール構想の構築などにも取り組む必要があります。さらには、運動部活動の地域移行という大きな課題もあり、これについては今月下旬に中間まとめが出される予定ですが、令和5年度から令和7年度までの3か年を「改革集中期間」として、段階的に進めていくことがすでに示されたように、早急に取り組む必要があります。今年度も継続して大きな変革の年であり、このような教育改革を着実に進めていくためには、全国の校長先生方が連携・協力し、中学校教育の進むべき方向性を明確に示す必要があります。そして明るい未来のために中学校教育を充実・発展させていくことが不可欠と信じています。我々も強い意志をもって、校長としての責任を果たすとともに、中学校教育のさらなる改革を推進して参りたいと思います。そして、全国の会員の皆様の知恵と熱い気持ちを結集し、不透明な時代をたくましく生き抜いていく、生徒たちの健全な成長を願い、常に前進してい

きたいと考えております。

本日の総会では、昨年度の活動を振り返り、今年度の方向性について、全国の会員の皆様と確認しながら、同じ方向に向かって突き進んでいこうとする強い気持ちをまとめていくという重要な意味があります。ぜひとも、全国の会員の皆様と課題を乗り越えながら、中学校教育をさらに発展させていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

最後になりますが、全日中の役員もこの総会で大きく入れ替わります。今までご協力いただいた役員の皆様に、厚く御礼申し上げます。また、新しく役員になられた皆様におかれましては、今後の全日中の活動にご尽力いただくことをお願い申し上げます。全国の会員の皆様、お一人お一人のさらなるご健康とご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。